

令和4年度 学習の手引き（シラバス）

科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
-----	---------	-----	-----

1 科目の目標

自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを見通しをもって行うことなど通して理解し，自然の

2 評価の観点と評価基準

	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	①自然と人間生活とのかかわりについて理解している。 ②科学技術と人間生活とのかかわりについて理解している。	①人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出すことができる。 ②見通しをもって実験・観察・調査などを行うことがで	①自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 ②自然の原理・法則や科学技
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度
・定期考査①～⑤の成績	・定期考査①～⑤の成績	・授業での説明を聞く態度

4 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	科学技術の 海土	考査①	5
	5月	科学技術の始まり		
	6月	物質の科学 材料とその再利用 生活の中のさまざまな物質 金属 プラスチック セラミックス	考査②	17
後期	7月	生命の科学 ヒトの生命現象 わたしたちの生活環境と眼 ヒトの生命活動と健康の維持 ヒトの生命現象とDNA	考査③	17
	8月			
	9月			
後期	10月	光や熱の科	考査④	17
	11月	熱の性質とその利用 熱 熱の発生 エネルギーの変換と利用		
	12月	宇宙や地球	考査⑤	22
1月	太陽と地球 太陽系の構成天体と人間生活 潮汐と人間生活			
2月	これからの科 人間	これからの科学・技術と人間		

* 単元の順が変わることもあります。

	3月			
--	----	--	--	--

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

まず、授業に出ることが大切です。予習より復習を大切にして、授業で関心の持てた事については図書館の本などを読んで理解を深めると良いでしょう。教科書・問題集を中心に授業をすすめます。定期考査前の復習も大切にしましょう。

6 教科書・副教材

科学と人間生活（実教出版）・ 科学と人間生活エブリィノート 授業のまとめ（実教出版）

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	物理基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

- ・高等学校新物理基礎（第一学習社）, Let's Try Note物理基礎Vol.1力学（東京書籍）

2 科目の目標

- ・実験や身近な現象の考察を通して、物理的な事象の原理・法則を理解する。
- ・物理の原理が、日常生活にみられる現象や、自然の仕組みに深く関わった身近なものであることを理解する。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	力と運動	物体の運動	 考查① 13
	5月			
	6月	力と運動の法則	考查②	15
	7月	エネルギー	仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー	 考查③ 15
	8月			
9月				
後 期	10月	波 動	波の性質 音波	 考查④ 18
	11月			
	12月	電 気	電荷と電流 電流と磁場 エネルギーとその利用	 考查⑤ 17
	1月			
	2月			
3月	* 単元の順が変わることもあります。			

4 評価の方法

- ・平常の授業の積極的な参加（授業への出席、課題や実験への取り組み）
 - ・基礎的な知識の理解（定期考查での頑張り）
- 以上を総合的に判断して評価します。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ※ ・物理基礎は多くの場面で計算が必要になります。基本的な計算方法について、出来るだけ不安のないようにしておきましょう。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	化学基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

高校化学基礎 新訂版(実教出版)・レポート&チャージ 化学基礎ドリル(実教出版)
--

2 科目の目標

科学的な事物・現象についての観察、実験をして、物質に関する基礎的な知識を身につける。また、物質の基本単位である原子・分子・イオンに関して学び、物質の特性と関連づけて理解する。日常の事物に対し、科学的な視点で理解を深める。
--

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前 期	4月	物質の構成	元素 原子・分子・イオン 単体と化合物 純物質と混合物	考査①	13
	5月				
	6月	物質と化学結合	原子の構造 原子の電子配置と周期律 イオンの生成とイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	考査②	15
	7月				
	8月	物質と化学反応式	物質質量 化学反応式 化学変化の量的関係	考査③	15
9月					
後 期	10月	酸と塩基	酸と塩基 水素イオン濃度とPH 中和反応 塩	考査④	18
	11月				
	12月	酸化還元反応	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属のイオン化傾向と酸化・還元 電池・電気分解	考査⑤	17
	1月				
	2月				
3月					

4 評価の方法

授業参加・・・授業への出席はもちろんのこと、授業及び、課題や実験に対して取り組む姿勢。 学習成績・・・定期考査の成績で一定の成績を修めること。
--

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ ・講義と実験が中心となります。教科書の問題以外にも問題集の問題に取り組めます。 授業中のノートはしっかりとるようにしてください。 ・実験については積極的に参加することが大切です。また、関わる課題も必ず提出してください。
--

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	生物基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

高校生物基礎 新訂版(実教出版)・アクセスノート生物基礎 改訂版(実教出版)

2 科目の目標

動植物の体や組織を実際に観察し、その神秘的なしくみを感動的に学ぶ。また多くの生物に接してその多様性と共通性を探り、生命の連続性や環境との関わりを学ぶ。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	生物の共通性と多様性	①	13
	5月			
	6月	細胞とエネルギー	②	15
	7月	遺伝情報とDNA 遺伝情報の分配 タンパク質合成のしくみ	③	15
	8月			
9月				
後 期	10月	生物の体内環境の維持	④	18
	11月			
	12月	生物の体内環境 生物の多様性と生態系	⑤	17
	1月			
	2月			
3月				

4 評価の方法

授業参加・・・授業への出席はもちろんのこと、授業及び、課題や実験に対して取り組む姿勢。
学習成績・・・定期考査の成績で一定の成績を修めること。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

まず、授業に出席し、授業内容を教科書やプリントで確認し、先生の話聞くことが大切です。そして予習より復習を大切にし、授業で関心の持てた事については、本やインターネットで調べたり、先生に質問すると良いでしょう。定期考査前にはプリントや教科書をよく読み、問題集に取り組むなど、計画的に勉強し、考査に臨みましょう。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地学基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

地学基礎 新訂版(実教出版)・ビジュアルプラス 地学基礎ノート(実教出版)

2 科目の目標

地学的な事物・現象についての観察、実験をして、地学に関する基礎的な知識を身につける。また、地球や地球を取り巻く環境に関して学び、日常生活や社会と関連づけて理解する。日常の事物に対し、科学的な視点で理解を深める。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	地球の構成と運動	地球の形と大きさ 地球内部の構成 プレートの運動 火山と地震	①	13
	5月				
	6月	地球の変遷	地層と化石 古生物の変遷と地球環境	②	15
	7月	大気と海洋	大気と海洋の構造と運動 海洋の構造と海水の運動 日本の四季の気象と気候	③	15
	8月				
9月					
後 期	10月	太陽系と宇宙	太陽系の中の地球 太陽とその進化 宇宙のすがた	④	18
	11月				
	12月	地球の環境	日本の自然環境 地球環境の科学	⑤	17
	1月				
	2月				
3月					

4 評価の方法

授業参加・・・授業への出席はもちろんのこと、授業及び、課題や実験に対して取り組む姿勢。 学習成績・・・定期考査の成績で一定の成績を修めること。
--

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ ・講義と実験が中心となります。教科書以外にも補助プリントなどを用いて進めていきますが、教科書に書かれていない内容も取り上げますので、授業中のノートはしっかりとってください。 ・実験については積極的に参加することが大切です。また、関わる課題も必ず提出してください。

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	理科実験	単位数	1単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

実験の手引き (自主教材)

2 科目の目標

自然と人間生活との関わりについて、また科学技術が人間生活に果たしてきた役割について学習する。科学的な見方や考え方を養うとともに、興味・関心を高める。
--

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	説明会・ガスバーナーの使い方・炎色反応	考査	2	
		①桜や植物の細胞、ツクシの孢子観察		2	
	5月	②混合物の分離、ワインの蒸留		2	
		③木炭の製造		2	
		④デンプンの性質		2	
	6月	⑤サリチル酸メチルの合成		2	
		⑥エステル の性質、バナナの香りの合成		2	
	7月				
		⑦ゾウリムシの観察		2	
8月					
	⑧メンデルの法則、優性の法則と分離の法則	2			
9月	⑨メンデルの法則、独立の法則、DNAの分離	2			
後期	10月	⑩光合成色素の分離		2	
		⑪学習曲線、盲点検出、錯視体験		2	
	11月	⑫タンパク質の検出、ナイロン66の合成		2	
		⑬同素体イオウと炭素		2	
		⑭ピーナツのエネルギー		2	
	12月	⑮熱平衡観察		2	
		⑯星座の早見盤作成		2	
	1月	⑰フズリナ化石の観察		2	
		A講座、B講座合同まとめ		2	
	2月				
3月					
		* 単元の順が変わることもあります。 大学進学者で希望する者は、 十月以降自分でテーマを決めて課題研究を行います。			

4、評価の方法

授業への参加を重視します。なるべく遅刻や欠席をしないで、積極的に参加してください。そしてなにより授業を楽しみましょう。レポート提出を重視しますのでレポートはしっかりと書きましょう。
--

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ まず、授業に出ることが大切です。予習より復習を大切にして、授業で関心の持てた事については図書館の本などを読んで理解を深めると良いでしょう。
